

# CASBEE神戸ver.3

## 評価結果

■使用評価マニュアル：CASBEE神戸ver.3/CASBEE建築（新築）2016年版 | 使用評価ソフト：CASBEE神戸ver.3/CASBEE-BD\_NC\_2016(v3.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	川崎重工株式会社 西神戸工場	階数	地上10F
建設地	兵庫県神戸市西区榎谷町松本字下名	構造	S造
用途地域	工業専用地域・法22条の地域	平均居住人員	1,000 人
地域区分	6地域	年間使用時間	3,000 時間/年(想定値)
建物用途	事務所	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2023年12月 予定	評価の実施日	2022年7月1日
敷地面積	142,972 m <sup>2</sup>	作成者	笠原 恒孝
延床面積	1,622 m <sup>2</sup>	確認日	2022年7月1日
延床面積	15,013 m <sup>2</sup>	確認者	笠原 恒孝



2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)	2-2 ライフサイクルCO <sub>2</sub> (温暖化影響チャート)	2-3 大項目の評価 (レーダーチャート)
<p><b>BEE = 3.0</b> ★★★★★</p> <p>S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★</p>	<p>☆☆☆☆☆ 30% ☆☆☆☆☆ 60% ☆☆☆☆☆ 80% ☆☆☆☆☆ 100% ☆☆☆☆☆ 100%超: ☆</p> <p>標準計算</p> <p>①参照値 100% ②建築物の取組み 73% ③上記+②以外の 73% ④上記+ 73%</p> <p>このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです</p>	

2-4 中項目の評価 (バーチャート)		
<p><b>Q 環境品質</b> Qのスコア = 3.4</p>		
<p><b>Q1 室内環境</b> Q1のスコア = 3.4</p>	<p><b>Q2 サービス性能</b> Q2のスコア = 3.9</p>	<p><b>Q3 室外環境 (敷地内)</b> Q3のスコア = 3.1</p>
<p><b>LR 環境負荷低減性</b> LRのスコア = 4.2</p>		
<p><b>LR1 エネルギー</b> LR1のスコア = 4.3</p>	<p><b>LR2 資源・マテリアル</b> LR2のスコア = 4.2</p>	<p><b>LR3 敷地外環境</b> LR3のスコア = 3.9</p>

3 CASBEE神戸の重要項目		
<p><b>バリアフリー計画</b></p> <p>Q-2/1.1.3 バリアフリー計画</p> <p>3.0</p>	<p><b>建築物の耐震性等</b></p> <p>Q-2/2.1 耐震・免震・制震・制振</p> <p>4.8</p> <p>Q-2/2.4 信頼性</p> <p>3.2</p>	<p><b>まちなみ・景観への配慮</b></p> <p>Q-3/2. まちなみ・景観への配慮</p> <p>4.0</p>
<p>配慮の概要</p> <p>0</p>	<p>配慮の概要</p> <p>0</p>	<p>配慮の概要</p> <p>0</p>
<p>その他の配慮事項</p> <p>0</p>		

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生涯の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される  
 ■LCCO<sub>2</sub>の算定条件等については、「LCCO<sub>2</sub>算定条件シート」を参照されたい

**CASBEE神戸ver.3/CASBEE-建築(新)**  
**川崎重工工業株式会社 西神戸工場 新総合ビル**

■使用評価マニュアル CASBEE神戸ver.3/CASBEE-建築  
 ■評価ソフト: CASBEE神戸ver.3/CASBEE-BD\_

欄に数値またはコメントを記入

スコアシート		実施設計段階		環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体
<b>Q 建築物の環境品質</b>										<b>3.4</b>
<b>Q1 室内環境</b>							0.40	-	-	<b>3.4</b>
<b>1 音環境</b>						<b>4.0</b>	0.15	-	-	<b>4.0</b>
1.1 室内騒音レベル						<b>3.0</b>	0.40	<b>3.0</b>	-	
1.2 遮音						<b>5.0</b>	0.40	-	-	
1 開口部遮音性能		T-2性能				<b>5.0</b>	0.60	<b>3.0</b>	-	
2 界壁遮音性能		D45				<b>5.0</b>	0.40	<b>3.0</b>	-	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)						<b>3.0</b>	-	<b>3.0</b>	-	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)						<b>3.0</b>	-	<b>3.0</b>	-	
1.3 吸音		天井:岩綿吸音板、床:タイルカーペット				<b>4.0</b>	0.20	<b>3.0</b>	-	
<b>2 温熱環境</b>						<b>3.3</b>	0.35	-	-	<b>3.3</b>
2.1 室温制御						<b>3.6</b>	0.50	-	-	
1 室温						<b>3.0</b>	0.38	<b>3.0</b>	-	
2 外皮性能		Low-e複層ガラス、外壁・屋根の断熱材				<b>4.0</b>	0.25	<b>3.0</b>	-	
3 ゾーン別制御性		ペリメータとインテリアのゾーニング、ペリ側に冷暖フリーを採用				<b>4.0</b>	0.38	-	-	
2.2 湿度制御						<b>3.0</b>	0.20	<b>3.0</b>	-	
2.3 空調方式						<b>3.0</b>	0.30	<b>3.0</b>	-	
<b>3 光・視環境</b>						<b>3.2</b>	0.25	-	-	<b>3.2</b>
3.1 昼光利用						<b>1.8</b>	0.30	-	-	
1 昼光率						<b>1.0</b>	0.60	<b>3.0</b>	-	
2 方位別開口							-	<b>3.0</b>	-	
3 昼光利用設備						<b>3.0</b>	0.40	<b>3.0</b>	-	
3.2 グレア対策						<b>4.0</b>	0.30	-	-	
1 昼光制御		ブラインドと庇により制御				<b>4.0</b>	1.00	<b>3.0</b>	-	
3.3 照度						<b>2.0</b>	0.15	<b>3.0</b>	-	
3.4 照明制御		1作業区分で制御可能				<b>5.0</b>	0.25	<b>3.0</b>	-	
<b>4 空気質環境</b>						<b>3.3</b>	0.25	-	-	<b>3.3</b>
4.1 発生源対策						<b>3.0</b>	0.50	-	-	
1 化学汚染物質						<b>3.0</b>	1.00	<b>3.0</b>	-	
4.2 換気						<b>3.6</b>	0.30	-	-	
1 換気量		30m <sup>3</sup> /h人以上の換気量				<b>4.0</b>	0.33	<b>3.0</b>	-	
2 自然換気性能						<b>3.0</b>	0.33	<b>3.0</b>	-	
3 取り入れ外気への配慮		各種排気と6m離している				<b>4.0</b>	0.33	<b>3.0</b>	-	
4.3 運用管理						<b>3.5</b>	0.20	-	-	
1 CO <sub>2</sub> の監視		手動による計測及び管理マニュアルの整備を行う				<b>4.0</b>	0.50	-	-	
2 喫煙の制御						<b>3.0</b>	0.50	-	-	
<b>Q2 サービス性能</b>						-	0.30	-	-	<b>3.9</b>
<b>1 機能性</b>						<b>3.7</b>	0.40	-	-	<b>3.7</b>
1.1 機能性・使いやすさ						<b>3.0</b>	0.40	-	-	
1 広さ・収納性						<b>3.0</b>	0.33	<b>3.0</b>	-	
2 高度情報通信設備対応						<b>3.0</b>	0.33	<b>3.0</b>	-	
3 バリアフリー計画						<b>3.0</b>	0.33	-	-	
1.2 心理性・快適性						<b>4.0</b>	0.30	-	-	
1 広さ感・景観		事務室天井高2.7m、南北面は横連窓とする				<b>4.0</b>	0.33	<b>3.0</b>	-	
2 リフレッシュスペース		執務室の1%以上 自動販売機設置				<b>5.0</b>	0.33	-	-	
3 内装計画						<b>3.0</b>	0.33	-	-	
1.3 維持管理						<b>4.5</b>	0.30	-	-	
1 維持管理に配慮した設計		内装では防汚性や維持管理に配慮、外装は耐候性塗料を採用				<b>4.0</b>	0.50	-	-	
2 維持管理用機能の確保		充分なスペースの清掃員控室、廃棄物置場を確保				<b>5.0</b>	0.50	-	-	
<b>2 耐用性・信頼性</b>						<b>4.0</b>	0.30	-	-	<b>4.0</b>
2.1 耐震・免震・制震・制振						<b>4.8</b>	0.50	-	-	
1 耐震性(建物のこわれにくさ)		耐震安全率1.5倍 制震による損傷制御設計				<b>5.0</b>	0.80	-	-	
2 免震・制震・制振性能		制震装置を導入し、部分的に地震時の内部設備保護を図る				<b>4.0</b>	0.20	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数						<b>3.4</b>	0.30	-	-	
1 躯体材料の耐用年数						<b>3.0</b>	0.20	-	-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔						<b>2.0</b>	0.20	-	-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		タイルカーペット、ビニルクロス、岩綿吸音板				<b>5.0</b>	0.10	-	-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔						<b>3.0</b>	0.10	-	-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		上位3種の2種類以上にB以上の管材を使用、Eは不使用				<b>5.0</b>	0.20	-	-	
6 主要設備機器の更新必要間隔						<b>3.0</b>	0.20	-	-	
2.4 信頼性						<b>3.2</b>	0.20	-	-	
1 空調・換気設備						<b>3.0</b>	0.20	-	-	
2 給排水・衛生設備						<b>3.0</b>	0.20	-	-	
3 電気設備		非常用発電機・無停電装置の設置、電源設備の地下設置無し				<b>4.0</b>	0.20	-	-	
4 機械・配管支持方法						<b>3.0</b>	0.20	-	-	
5 通信・情報設備						<b>3.0</b>	0.20	-	-	

<b>3 対応性・更新性</b>			<b>4.0</b>	0.30	-	-	<b>4.0</b>
<b>3.1 空間のゆとり</b>			<b>4.6</b>	0.30	-	-	
1	階高のゆとり	階高3.9以上	5.0	0.60	3.0	-	
2	空間の形状・自由さ	壁長さ比率0.30未満	4.0	0.40	3.0	-	
<b>3.2 荷重のゆとり</b>			<b>4.0</b>	0.30	<b>3.0</b>	-	
4500N/m <sup>2</sup> 以上							
<b>3.3 設備の更新性</b>			<b>3.6</b>	0.40	-	-	
1	空調配管の更新性		3.0	0.20	-	-	
2	給排水管の更新性		3.0	0.20	-	-	
3	電気配線の更新性	ラック配線、天井点検口の適正配置による更新性の向上	5.0	0.10	-	-	
4	通信配線の更新性	二重床、ラック配線、天井点検口の適正配置による更新性の向上	5.0	0.10	-	-	
5	設備機器の更新性		3.0	0.20	-	-	
6	バックアップスペースの確保	将来スペースを確保	4.0	0.20	-	-	
<b>Q3 室外環境(敷地内)</b>			-	0.30	-	-	<b>3.1</b>
<b>1 生物環境の保全と創出</b>			<b>2.0</b>	0.30	-	-	<b>2.0</b>
<b>2 まちなみ・景観への配慮</b>			<b>4.0</b>	0.40	-	-	<b>4.0</b>
建物形状や植栽により良好な景観を形成							
<b>3 地域性・アメニティへの配慮</b>			<b>3.0</b>	0.30	-	-	<b>3.0</b>
<b>3.1 地域性への配慮、快適性の向上</b>			<b>3.0</b>	0.50	-	-	
<b>3.2 敷地内温熱環境の向上</b>			<b>3.0</b>	0.50	-	-	
<b>LR 建築物の環境負荷低減性</b>			-	-	-	-	<b>4.2</b>
<b>LR1 エネルギー</b>			-	0.40	-	-	<b>4.3</b>
<b>1 建物外皮の熱負荷抑制</b>			<b>5.0</b>	0.20	-	-	<b>5.0</b>
BPI <sub>m</sub> :0.77							
<b>2 自然エネルギー利用</b>			<b>3.0</b>	0.10	-	-	<b>3.0</b>
<b>3 設備システムの高効率化</b>			<b>4.3</b>	0.50	-	-	<b>4.3</b>
[BEI][BEIm] = 0.67							
<b>4 効率的運用</b>			<b>4.5</b>	0.20	-	-	<b>4.5</b>
集合住宅以外の評価			<b>4.5</b>	1.00	-	-	
4.1	モニタリング	中央監視盤による電気量の計測、BEMSIによる分析	4.0	0.50	-	-	
4.2	運用管理体制	運用・維持・保全の基準方針の策定	5.0	0.50	-	-	
集合住宅の評価			-	-	-	-	
4.1	モニタリング		3.0	-	-	-	
4.2	運用管理体制		3.0	-	-	-	
<b>LR2 資源・マテリアル</b>			-	0.30	-	-	<b>4.2</b>
<b>1 水資源保護</b>			<b>3.5</b>	0.20	-	-	<b>3.5</b>
<b>1.1 節水</b>			<b>4.0</b>	0.40	-	-	
節水コマに加え、節水型便器を採用							
<b>1.2 雨水利用・雑排水等の利用</b>			<b>3.3</b>	0.60	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無		3.0	0.70	-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無	雑排水利用システムを採用	4.0	0.30	-	-	
<b>2 非再生性資源の使用量削減</b>			<b>4.5</b>	0.60	-	-	<b>4.5</b>
2.1	材料使用量の削減	鉄骨基準強度F=325、BCP鋼材、QLデッキなど	5.0	0.11	-	-	
2.2	既存建築躯体等の継続使用		3.0	0.22	-	-	
2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	杭や基礎等に高炉セメントを使用	5.0	0.22	-	-	
2.4	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	リサイクル材を3品目採用	5.0	0.22	-	-	
2.5	持続可能な森林から産出された木材		-	-	-	-	
2.6	部材の再利用可能性向上への取組み	乾式工法なので躯体と仕上材が容易に分別可能	5.0	0.22	-	-	
<b>3 汚染物質含有材料の使用回避</b>			<b>3.9</b>	0.20	-	-	<b>3.9</b>
<b>3.1 有害物質を含まない材料の使用</b>			<b>5.0</b>	0.30	-	-	
接着剤・シール等に有害物質を含まない製品を使用							
<b>3.2 フロン・ハロンの回避</b>			<b>3.5</b>	0.70	-	-	
1	消火剤		-	-	-	-	
2	発泡剤(断熱材等)	ODP=0,GWP<50の断熱材を採用	4.0	0.50	-	-	
3	冷媒		3.0	0.50	-	-	
<b>LR3 敷地外環境</b>			-	0.30	-	-	<b>3.9</b>
<b>1 地球温暖化への配慮</b>			<b>4.0</b>	0.33	-	-	<b>4.0</b>
LCCO2排出量の抑制							
<b>2 地域環境への配慮</b>			<b>3.6</b>	0.33	-	-	<b>3.6</b>
<b>2.1 大気汚染防止</b>			<b>5.0</b>	0.25	-	-	
燃焼機器を使用していない							
<b>2.2 温熱環境悪化の改善</b>			<b>3.0</b>	0.50	-	-	
<b>2.3 地域インフラへの負荷抑制</b>			<b>3.7</b>	0.25	-	-	
1	雨水排水負荷低減		3.0	0.25	-	-	
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
3	交通負荷抑制	駐車場、駐輪場の適正台数確保	5.0	0.25	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制	ゴミの分別を行い、各階に置場を設置	4.0	0.25	-	-	
<b>3 周辺環境への配慮</b>			<b>4.2</b>	0.33	-	-	<b>4.2</b>
<b>3.1 騒音・振動・悪臭の防止</b>			<b>5.0</b>	0.40	-	-	
1	騒音	境界線において基準値以上の騒音対策	5.0	1.00	-	-	
2	振動		-	-	-	-	
3	悪臭		-	-	-	-	
<b>3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制</b>			<b>3.0</b>	0.40	-	-	
1	風害の抑制		3.0	0.70	-	-	
2	砂塵の抑制		1.0	-	-	-	
3	日照阻害の抑制		3.0	0.30	-	-	
<b>3.3 光害の抑制</b>			<b>5.0</b>	0.20	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	光ガイドライン・広告物ガイドラインに準じて計画	5.0	0.70	-	-	
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策	西面にルーバー、各階に庇を設置、反射光のシミュレーション実施	5.0	0.30	-	-	